

星をあつめる少女

◆ ◆ ◆

ルナは夜空を見上げるのが大好きな女の子。

「いつか星に届きたい」
それがルナの夢でした。

ある夜、おばあちゃんが不思議なビンをくれました。

「これは星を集めるビンだよ」

「でも星は遠すぎて届かないよ」

「本当にそうかしら？よく見てごらん」

おばあちゃんが指さした先。

水たまりに星が映っていました。

ルナはそっとすくいました。

ビンの中で小さな光がゆらゆら。

「できた！」

ルナの目が輝きました。

それからルナは毎晩星を集めました。

露に映る星、窓に映る星、涙に映る星...

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

ある日、カラスがビンをくわえて飛んでいきました。

「あ！私の星！」

ビンは遠くの木の上に落ちて割れました。

光がバラバラに散っていきます。

ルナは泣きました。

「全部なくなっちゃった...」

「上を見てごらん」

散らばった光は夜空に昇っていき、

新しい星座になっていました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

「あなたが集めた光は、消えたんじゃない。
空に届いたのよ」

この物語から：

小さな光を集め続ければ、いつか大きな輝きになる。
ルナの星座は今も夜空で輝いています。

おしまい



Speaker notes